

Shin Club 16

㈱辰 通信 Vol.16

July 2001年

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4-7f

Phone: 03-3486-1570 Fax: 03-3486-1450

今月のトーク 「コンクリート住宅のリフォーム」

築20年以上のコンクリートの住宅を改修しました。吉祥寺から徒歩20分ほどの閑静な住宅街。もともとご施主様のご両親のお宅でしたが、改装し、このたびご施主様のOさん、奥様、小学生のお子様の2人が暮らすことになりました。

最初の設計は、日大の三橋満先生。Oさんの恩師でもあり、ガラスブロックの利用では、右に出るものはいないといわれた方です。研究室にいらしたOさんはこの設計の前年、先生とフランス旅行をされましたが、「メゾン・ドゥ・ヴェール」(ピエール・シャロウ)という1930年代のガラスブロックで有名な建築も訪れ、その影響があったと思うと話してくださいました。『自然を感じられる住い』というコンセプトがいたるところに生かされています。吹抜けのリビング、ガラスブロック、大きな窓と採光の行き届いた空間が心地よく、外部に設けられたゲストルームのトイレは、わざわざトイレのために外に出ることで天候を感じられるようにというもので、昔の日本家屋にあった感覚を味わうためというところが奇抜でした。

今回は、営業を担当した弊社窪田幸夫に実際の工事の詳細についてレポートを依頼しました。

「実は私だけは4年ほど前に一度お宅をおたずねした事があります。今回は全面改修のため、全てのスペースを図面と照らし合わせ見せていただきました。20年前に建てられた、この雄大な大空間、和室の趣き、ゲストルームへの外部渡り廊下、そして外部に設置されたゲスト専用トイレ、どれひとつをとっても年月を感じさせません。私自身、現在様々な建物を注文頂き施工しており、また一般の建物よりかなり自由な設計の住宅、商業店舗ビルなど、時代の先端的デザインの仕事を施工させていただいていますが、O邸はまさにそんな現在のデザインが吹っ飛ばすような空間力を持った建物でした。

RC造の典型的ラーメン構造で、基本は直線でデザインされ、外壁は全て打ち放し、内部パブリック部分も打ち放しで構成されています。今回内外とも打ち放し部分は一切手をかけておりません。

外部に関しては開口部を中心に改修を行い、既存はスチール建具に木製雨戸取付け木部を強調していましたが、改修ではサッシはステンレスで、それを目立たないよう外部に3mm厚のフッ素塗装アルミカットパネルでカバーする工事を行いました。内部、特にキッチンなどは以前より使いやすく、現実に即した形に改修しました。

改修が完成した内外を見ると、外部のコンクリートの経年した部分と新しく改修したアルミカットパネル、庭に新たに設けた石張りのテラス、そしてその部分を通りよりやさしく目隠しする打ち放し壁との建物全体のコントラストが非常に良好に納まったと感じます。内部は天井高5mを超える吹き抜け部分をさらに強調すべくサッシ・鉄骨階段・空中に架かる渡り廊下の構造部を既存の黒塗りより白に塗り替えています。この建物を見ていると、鉄骨造・アルミとガラスが協調し、床・壁・天井とも真っ白に配色された、現在先端を行く建物が、20年後の私たちにどのような映るか、大変興味があります。

今回調査にお伺いした時、お母様と少しお話をする時間がありました。大部分の床に採用した床暖房、大きく重い木製雨戸、それらがだんだん壊れていき大変な思いをした20年だったそうです。しかしその話を伺いながら、大多数の人が望んでもとても住むことが出来ないような建物を、20年間住みこなし事への自信が感じられました。

年月を経た建物のかもし出す温かみ、そしてコンクリート造の底から湧いてくる力強さを実感しつつ、新築設計時より参画し、今回もまた改修設計をされた施主O氏の改修に向けての確固たるコンセプトが表現された図面に基づき、現場打ち合わせを重ねたことには非常に感慨深いものがあります。基本設計と施工の確かさがベースとなり、工事の成功につながりました。」

デザインのすばらしさと施工の確かさで、コンクリート住宅は、世代を経て受け継がれていくものだ、実感しました。環境に配慮した建物づくりを求められている現在、100年を経ても生き続ける良質なコンクリート住宅をつくらうとしている私たちにとって、今度の仕事は大きな自信と励みになりました。

TOPICS

'H邸 お引渡し' (6月27日) 渋谷区

広告代理店の専務様のお宅です。木造ですが、かなりボリュームのある家が都心に出来上がりました。1階の和室には茶室もついて、庭もおちついた雰囲気になっています。

設計: 株式会社汎総合都市研究所
佐々木充



'代田の家 お引渡し' (6月21日) 世田谷区

2世帯住宅です。奥様はインテリアなどの輸入雑貨を取り扱う仕事をされています。ご主人は、趣味のドラムが叩ける部屋を地下にご希望です。奥様の実家のご両親の家を建てかえ、同居することになりました。ご両親の世帯は1階の奥の敷地の1階部分、ご夫婦の世帯は表側の敷地(地下1階、地上2階)とそれぞれ独立した構成になっています。

ご両親の世帯の屋根の上に、庭に代わる大きなデッキを取りました。奥様が選んだ、大きな素焼きの鉢におさまった南洋の蘭がダイナミックに置かれており、ボリューム感のある空間になっています。2階は、お嬢さんの個室と、リビングダイニング。東南アジアテイストの家具や雑貨がリラックスした雰囲気を醸し出し、壁には以前の家の鴨居を飾ってあります。この2階は、北面とデッキに向けた東面が全面ガラス窓で、工事担当者も苦労したのですが、冷房は不要、風だけで十分涼しいそうです。南側が現在空き地ですが、将来新たに建物が建つと予想して、北側に大きく窓をとることで、落ち着いた採光を実現しています。地下は、奥様の事務所とスタジオと納戸。地下の涼しさはまた格別です。サイザル椰子を張った吹抜けの階段を下りると、その温度差を実感します。

設計: E.P.A.環境変換装置建築研究所



WHAT'S NEW

~ 都市生活者の住宅 & ライフマガジン ~

'lives (ライヴズ)' 創刊号 (季刊 2001 SUMMER) 発行元: (株)第一プログレス

「価値観が多様化する都市生活の中で住宅に対する要望も変わりつつある。なのに、受け皿はまだわずかしかり用意されていない。...都市の暮らしをクリエイティブに楽しんでいる人たちの姿。物件や建築家など、個性的な都市の暮らしを実現するための情報。これらを通して都市型ライフスタイルのヒントを提案していきたい」というコンセプトで発行された新雑誌。

弊社施工、大塚正彦氏設計の家が「ジュ タクシユミレーション(p.118)」で、また7月に販売を開始した「聖蹟桜ヶ丘の斜面長屋」が「物件レビューNo. 7(p.73)」で紹介されています。



INFORMATION

夏期休暇 8月13日(月) ~ 15日(水)

